

【きつとね！ 米沢のりひさ まちづくり報告会】

2022.10.13 ホテル日航ノースランド帯広

～市長講演要旨～

皆さん、こんばんは。

本日は、夜分にも関わらず「きつとね！まちづくり報告会」に、お運びいただきましたこと、まず心からお礼を申し上げたいと思います。



4月に市長選挙がございました。この報告会は約一年ぶりの開催と相成ったところであります。

4月の選挙では皆さんに大変お世話になりました。改めてお礼を申し上げる次第であります。本当にありがとうございました。

目次

- ① はじめに
- ② 近況報告
- ③ フードバレーとかち
～ニュースステージ～
- ④ おわりに

2

さて、本日は、目次に書きましたように、大きく4つの柱でお話をさせていただきたいと存じます。

まず、「はじめに」、次に「近況報告」では、概ね1年間分の写真を使い、説明させていただきます。

そして、今回の4回目の選挙にあたりまして、公約のタイトルとさせていただいた、「フードバレーとかち～ニュースステージ～」についてお話をさせていただいたあと、「おわりに」ということで結びさせていただきたいと思います。

4月の選挙でございますが、振り返りますと悲喜交々といえますか、色々ございました。

この間、選挙の間に出会い、そして記憶に残った、どちらかという私を勇気づけてくれた言葉、これを二つほど、皆さんにご紹介をすることでこの振り返りに代えさせていただきたいと思います。

まず、一つ目、辻仁成であります。

私と同世代の作家でありまして、ミュージシャンそして映画監督でもあります。作家活動は、しんにゅうの上に点がひとつあります辻(つじ)、そして仁成(ひとなり)と読ませるそうですが、ミュージシャンそして映画監督の時は、「つじじんせい」と読むと伺っています。

息子よ

やたらいちやもん付けてくる人は 寂しんだよ。
しつこく文句言ってくる連中は 自信ないんだよ。
しょっちゅう人の悪口言いふらしてるのはな、
空っぽなんだよ。いちいち相手してる暇はない。
攻撃してくる「構ってちゃん」らを すいすい交わし、
ぶっちぎりでゴールを決めたらいい。
君には 君の金メダル。

(辻 仁成)

4

「海峡の光」という作品で芥川賞を受賞しております。
このスライドの言葉、これは彼の息子へ贈る言葉からの引用であります。

フッドバレーとがち

**人を相手にせず 天を相手にせよ。
天を相手にして、己を尽くし、
人を咎めず、我が誠の足らざるを
尋ぬべし。**

(西郷南洲 遺訓)

5

もうひとつ、これも選挙の時、何度となく思い出して勇気づけられた言葉です。大変有名な言葉ですので、ご存じかと思いますが、私は、日本航空の元副社長をやっていた友人から贈られた西郷南洲の「遺訓」という本で、その言葉に出会いました。

人の言うことすることいちいち気にかけずに、もっと大きな存在といえますか、人の上にあるもの、いわゆる天を相手にすればいい。

大いなる天を相手にするつもりで、自分自身の精一杯を尽くせ。そして人の非を咎めるようなことはやっちゃならない、そしてもし、それがうまくいかないなら、自分の真心が足りないと反省すべきだという言葉だと認識しております。

言い換えれば、社会の小さな枠の中での評判であったり、狭い人間関係だけで物事を考えずに、もっと人間社会全体であるとか、後世への貢献、こういうことまで含めて考えて行動すべきというように読むのだろうと思います。

そしてそれがうまくいかなかった場合は、自分の誠意が足りなかったから相手に伝わらなかったんだとそう反省すべきだと言っている言葉であります。

批判されてなんぼというような世界に私は生きているわけであり、何をぼやけたことを言ってるんだというお叱りを受けるかもしれませんが、今回の選挙をクリア致しまして、今日こうして久しぶりに皆さんとお会いして、改めて自らに戒めているところであります。

これから近況報告をさせていただきたいと思います。

先ほど申しましたように、一年ほど遡りますができるだけ現状の色々な 이슈 に関係していることを皆さんと振り返らせていただきたいと思います。

多様な性に関する提言書の受理 (2021/11/24)



昨年の11月24日、「帯広市の男女参画市民懇話会」の会長から、「多様な性に関する提言書」をいただいたところであります。

多様な性を巡っては、近年社会の関心が高まる一方で、当事者の皆さんが周囲の無理解、そして偏見などで生きづらさを感じている、そして困っているという場面があるものと承知をしております。

帯広市ではその軽減を図るために、「帯広市パートナーシップ制度」というのを導入し、今年12月から運用を開始する予定であります。この制度は、婚姻関係はないものの行政が公的に認めるという仕組みであります。

関連する行政サービスの一部をご紹介しますと、準備が整ったものから段階的に開始していく予定ですが、例えば、市営住宅にパートナーと入居ができるようになる、税証明の発行にパートナーの委任状が不要になる、これまで配偶者であったり、家族にだけ限定されていたサービスや手続きをパートナーにも広げていこうというものであります。

これから、道内他市との地域間連携も進めていく予定であり、道内では、札幌、江別、函館、北見の4市が導入済みであります。このうち札幌、函館、北見の市長とは先般お話をし、帯広市の導入の後、双方向で連携できるように打ち合わせをしてきたところであります。

十勝圏活性化推進期成会 会長に就任（2021/11/25）

▶ R3.12月 強風被害 緊急要望



▶ R4. 7月 夏季要請活動



次であります、昨年の11月25日「十勝圏活性化推進期成会」の会長に就任いたしました。その際にピータードラッカーの言葉を引用してご挨拶をさせていただきました。

そこで申し上げたのは、「本質において一致、行動において自由、すべてにおいて信頼」こういう言葉を使って、これから期成会の会長を務めさせていただくにあたり、この考え方でいきたいとお話しさせていただきました。これをちょっと硬く言えば、全体最適と

個別最適。この兼ね合いが難しい。その本質、どうやったらうまくいくんだろうというときに、今申しました、「本質において一致、行動において自由、すべてにおいて信頼」という言葉というのは結構重いと思っております。

期成会会長となったのは11月25日で、昨年の12月1日から2日、十勝管内強風被害がございました。11市町村で延べ1万2700戸が停電となりました。農業関連施設をはじめ、倒木等によって道路通行に支障が出るというようなことが起き、様々な被害が発生したところであります。この際、この上の12月の写真のとおり現場を見て、その後、振興局に飛んで行って今後の対応についての陳情を行っているところが、右上の写真であります。

下は、今年の7月に期成会で夏季の要請活動を実施したというところであります。左下は、北海道の土谷副知事のところにお邪魔した時の写真です。そして右下は国交省の道路局にお邪魔した時の写真です。その甲斐あってか先日9月の末に、新得スマートインターチェンジの事業化が国から許可されました。スマートインターチェンジに合わせて、パーキングエリアもつくられるということで、今後に大きく期待をしているところであります。

北海道「命のみち」づくりを求める東京大会（2021/11/26）



これも11月ですが、北海道「命のみち」づくりを求める東京大会というのがございまして、こちらで十勝の広域交通ネットワークの必要性につきまして、私が代表してお話をさせていただいたときの写真であります。ご案内のように今年1月でありますけれども、帯広・広尾自動車道の早期建設促進期成会で、皆さんと一緒に東京の方に参りました。

3月には新規事業化の運びとなったことは、まだ記憶に新しいところであります。その他、札幌までの道のりの4車線化。これも随分力を入れてやってきたつもりであります。ところが4車線化しますと、将来の自動運転による物流イノベーションの可能性が広がるということでもあります。1車線ですと自動の運転ができないということで、この4車線化というのはかなり将来効いてくる話になります。

次ですが、コロナで市民の皆さんとお話をする機会が随分少なくなってしまいました。

今まで「市民トーク」といって、年に何度も色んなところにお邪魔してお話をしているんですけども、ここ10カ月くらいでは、12月と8月に行いました。

12月は、地域交流サロンの皆さんとお話をさせていただきました。

サロンの再開を楽しみにしているという強い、また熱い思いを聞かせていただいたところであり、改めて、人と人が触れ合うことの大切さというものを感じたところです。

そして8月、教室のようなところでやっているのが、清川の保育所であります。農村地区の保育所の給食に携わる皆さんと「市民トーク」をさせていただきました。

皆さん、ひと手間かけた給食づくりということに非常に努力をされておられました。それから保護者の皆さんの参画を工夫していると、常に前向きに取り組んでいるという話を伺い、本当に勇気づけられたところであります。

こんな言葉もありました。「私たちのところに来ている子供たちに、嫌いな食材を作らないように頑張るんだ。大人になったときに嫌いな食材がないことがどんなに豊かな人生につながるか、それを私たちは今給食でチャレンジしているんだ。」というお話を伺ったときに、非常にうれしいと言いますか、後ほどお話ししますが、「おいしい給食プロジェクト」をやるという公約をしておりますけれども、もう実質はこの十勝・帯広では、そういう思いを持った方たちがいっぱいいるんだということが、よくわかった次第であります。

市民トーク (2021/12/1、2022/8/10)



10

JALUX/山本忠信商店 戦略的ビジネス提携 (2022/2/8)



11

次であります。

JALUX (JAL) と山本忠信商店との間で、戦略的ビジネス提携を2月8日に結びました。小野町長にも当事者としてご参加いただいたところであります。

今日は、時間がないので細かく言いませんが、これ画期的であります。

JALさんの方が、例えば、空港にある販売店、それからECサイト、こういうところ

ろに十勝のコーナーを作っていただくということであります。

私、よく言うんですが、12年前に私が市長になったときは、JAL さんをはじめ色んなところをお願いに参りました。何とか十勝のものを使ってくれないか。最近はですね、この話も JALUX さんの方から来たお話です。

今日の勝毎さんのトップに出ていたと思いますが、イオンさんが「フードバレーとかち」のマークを付けた新しい商品を7種販売するという話になりました。

それから、よつ葉乳業さんが、十勝という名前を付けたチーズを販売されるようになりました。明治さんも前から十勝と言っておりました。

ここにきて、この十勝というものに対する反応は大きく変わってきています。今日は、ビジネスのういっばいおられますから、あまり偉そうなことは言えませんが、買ってくださいというのと、売ってくださいというのは天と地ほどの差があります。

それぞれの色んなプレイヤーの方たちの戦略に、北海道ブランドというよりも「十勝ブランド」という形で認知をされて、今、我々そういう中でのこれからの十勝の発展を考えていけるということでございます。これ非常に大きなポイントだと思います。

大空学園義務教育学校 開校 (2022/4/8)



12

次は、今年の4月、これも大きなことでありますが、「大空学園義務教育学校」が開校いたしました。

小中一貫9年制の義務教育学校であります。6歳から15歳までの生徒が、同じ校舎で学び生活しているということでもあります。

私の頃は6・3制と言いましたけれども4・3・2年制へと、今度は耳慣れない感じですがそれでも始まります。弾力的

にカリキュラム構成ができるということが非常に大きな 이슈 だと思っています。

なりよりも様々なイベントで異学年、異なった学年の生徒たちと交流ができるというのは、将来彼らの社会性を育むうえでも非常に大きなことだと感じております。

帯広市医師会 看護専門学校 地鎮祭 (2022/4/21)



13

次に、これも4月になりますが、帯広市医師会の看護専門学校の地鎮祭の写真であります。3年制の看護専門学校として来年の4月の開校を目指しております。来年の1月には校舎も完成する予定で、道から看護師養成の指定をされるという運びとなっております。

地域に根差した看護師の養成、これはこの地にとって大変ありがたい話です

し、様々な問題を我々抱えておりましたので、これは非常にありがたい話であります。

そして写真には出ておりませんが、音更町にあります帯広大谷短期大学、こちら来年4

月に短大の敷地内に3年制の看護学科棟の新設をされ、文科省から今年8月末に認可を受けているとお聞きしており、これで十勝の看護師養成所、4ヶ所になりました。

ただ単純に喜んでおられません、北海道全体でみても決して十勝の看護師の養成の状況というのは上の方を走っているわけじゃありません。これからの高齢化社会をにらんで、帯広市もしっかりと皆さんとタッグを組みながら頑張っていきたいと思っています。

防災協定に関する締結

(2022/5/30)

北海道電力(株)
北海道電力ネットワーク(株)



(2022/7/22)

(株) AIR STAGE



14

「防災協定に関する締結」ですが、まず、北電、北電ネットワークと今年の5月に防災協定を締結いたしました。

大規模災害時に発生した停電の早期復旧に向けて、連携していこうというものです。色んな障害物、木が倒れたり、様々なことが起きますから、そういうものの除去に関しても、二度手間にならないようにしっかりと連携を密にして早急に復旧を行うのが、この防災協

定であります。特に、強風被害の時に停電がすいぶん長く続きました。あの時、我々生懸命走り回ったんですけれども、さらに深い情報交換ですとか、普段からのシステムを作っておけばさらに良かったのではないかと反省がございまして、今年の5月に協定締結となりました。

次にその右側ですけれども、この7月であります。最近よく皆さんお耳にするドローン。ドローンを活用する災害対策ということでありまして、AIR STAGE さんという会社と協定を締結いたしました。例えば、帯広市役所の中にドローンのオペレーションを習熟した人間を養成したらどうだという話がありますけれども、災害の時に何人必要なんだとなったときに、こういうドローンを扱っている会社と連携しておくことでタイムリーにやっていただける、そして、彼らはプロである。というところで、まずこういう締結をしてその上で、これから我々市役所の中で、持っていなければならない機能は何かということをしっかり考えていきます。

日高山脈国立公園化

～中央環境審議会委員との意見交換会 (2022/6/9)



15

今年の6月のスライドであります、「日高山脈の国立公園化」に関し、中央環境審議会の委員の皆さんがこちらにおいでになって見学をされ、意見交換会の時の写真であります。

日高山脈国立公園になりますと、国内最大規模の国立公園になります。大雪ですとかそういうのは全部抜いてしまいます。我々非常に楽しみにしているところであります。

指定の時期は色々ございまして、

現在来年の4月以降になるというようになっておりますが、今しっかりと色んなところの調整を行っております。

これに関連しまして、今年の3月に国立公園化を地域振興の大きな契機と捉えようということで、十勝日高山脈観光連携協議会というものを十勝側にあります6市町村で結成させていただきました。

エリア周辺のアクティビティの開発など、広域連携のもとで地域全体のアウトドア観光のポテンシャルを上げていきたいということでありまして、手島芽室町長にそのヘッドをお願いしているというところであります。

とかちファンミーティング (2022/7/27~28)



16

今年の7月ですが、東京で「とかちファンミーティング」を行いました。これまでまちづくりを考えると、大体その地域の人たちだけで、ものを見ていたのですが、外から見ている十勝ってどんなところなのか、この視点は大切なんだろうと。

それからもう1点、パレートの法則と言いますが、お客さんが100人来てもそのうちのコアになる20人の客が全体の売り上げの8割を占める

という法則がございまして、つまり一見のお客さんを狙うのか、それともコアな8割を、常に見てもらえるファンをどうつくっていくか、そういうマーケティングをしていこうじゃないかというのが、最近よく言われる話であります。

特に有名なのが、今言った2割、8割の話は、カゴメというジュースの会社がありますけれども、あそこは一見の客の売り上げが2割、ファンが8割。ですからこの8割をネットで押さえてしまおうということで、あまり最近テレビでもマスのコマーシャルを打っていない訳であります。

私共も数年前にこういう考え方に出会いまして、「とかちファンミーティング」というのは、令和2年から東京で行っています。

サッカーのファンもそうですけれども、ファンって自分で勝手に試合に行きますよね。あれはお金を頂戴と言っていないですね。

それで、行って一緒になって応援をして、そしてまたそこにあるグッズを買って帰る。というような形になります。今、そういう方たちの意見を帯広、そして十勝のまちづくりに使っていこうということで、スタートしておりまして、非常に手ごたえを感じているところです。

今年はファンクラブのウェブサイトも作ったところです。

タイトルは「とかちのテーブル」です。そんなようなことを今やっているということであります。

おびひろ平原まつり (2022/8/14~15)



17

今年久しぶりでした。「平原まつり」。皆さんにもご参加いただき、3年ぶりの開催ということになりました。

行動制限はなかったのでありましたが、感染対策をしっかりと講じた中で、多くの皆さんにご参加をいただきました。

花火大会もそうですし、その後の「とかちマルシエ」もそうでした。これから今月末にあります「フードバレーとかちマラソン」もごさいます。

何とか色々な対策を取りながら、皆さんが交流できる機会をこれからもしっかりと作って参りたいと思っております。

どうかまた皆さんのご協力をよろしくお願い申し上げる次第であります。

最近の話になります。

「帯広市地域防災訓練」を9月18日に実施いたしました。

市民参加型の地域防災訓練ということで、これも3年ぶりの開催となりました。総合体育館、「よつ葉アリーナ十勝」での初めての実施となりましたけれども、今回は、避難情報をとって、避難訓練会場へ移動し、そこで感染症対策を踏まえながら、避難所を開設していく、こういう訓練を行ったところでありますが、非常に多くの示唆を受けたところであります。

訓練を通して、地域の防災力向上につながってほしいというふうに思っております。

帯広市地域防災訓練 (2022/9/18)



18

帯広市 開拓140年・市制施行90年 記念式典 (2022/11/1)



19

これでイベントのスライドも最後になりますが、今年帯広は「開拓140年、市制執行90年」の記念すべき年でありまして、11月1日に記念式典を開催することになります。

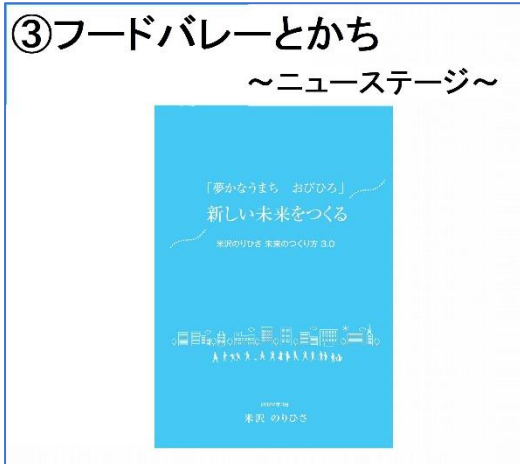
NHKの「のど自慢」も今年これに合わせて来ていただきましたし、勝毎さんの花火大会にもこの記念の花火を提供させていただきました。

百年記念館でも「晩成社展」というのをやらせていただき、多くの皆さんが来て下さり、非常に感謝をしているところであります。

明治16年、晩成社の一行が帯広に入植してから140年であります。

節目の年を皆さんと一緒に、歴史を振り返って、お祝いをしたいと思います。

ちなみに、今年も六花亭さんから140周年を記念して新しい商品を開発していただきました。「花の首飾り」という、もう売っておりますので、味わられた方おられると思いますが、実は70周年の時の記念銘菓が「ひとつ鍋」であります。それから10年おきに六花亭さんに作っていただいているということでありまして今年もお世話になりました。



「フードバレーとかち~ニューステージ~」であります。実はこういう青い冊子にして、この中に公約を書かせていただき、これを市民の皆さんにお配りしたということでもあります。

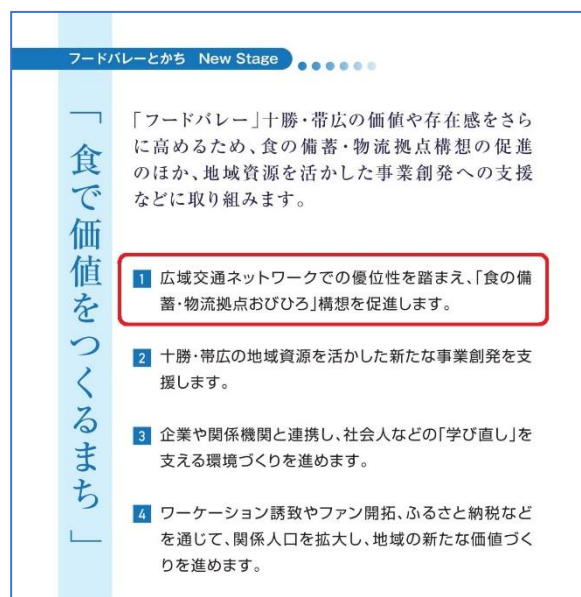
今回17の政策をこの中に書かせていただきました。いくつかだけ触れさせていただきたいと思います。

初めに、食の備蓄・物流基地構想です。高速道路が帯広で、縦と横につながるという状況が生まれてきました。

そして、一方でウクライナの情勢ですとか、異常気象そして日本海溝と千島海溝沿いの巨大地震、こういう中で食料の安全保障ですとか、安定供給の話が今世界中で、日本でも特に議論されているところであります。そこに2024年（令和6年）ですが、トラックの運転手の方の働く時間の上限規制が出てきたり、JR貨物の存廃問題が出てきて、さあこれからどうなるんだという話が今出ているわけではありますが、その中でこの十勝が非常に注目を浴びていると思います。

高速道路の整備自体にはまだまだ時間はかかりますが、十勝・東北北海道の食料供給力を生かして、この地域の価値、それから存在感をさらに高めていかなければならないと、そういうタイミングなんだと感じているところでございます。

時間はすぐ経っていくだろうというふうに思っております。2030年の札幌オリンピックのあたりが一つ大きな分水嶺となるだろうと言われていますけれども、その2030年に向けてこの十勝で、食料安全保障等の問題にどういう存在感を発揮していけるかというのは、これからの数年何をするかという事に掛かっているものと認識しております。



「食で価値をつくるまち」

「フードバレー」十勝・帯広の価値や存在感をさらに高めるため、食の備蓄・物流拠点構想の促進のほか、地域資源を活かした事業創発への支援などに取り組みます。

- 1 広域交通ネットワークでの優位性を踏まえ、「食の備蓄・物流拠点おびひろ」構想を促進します。
- 2 十勝・帯広の地域資源を活かした新たな事業創発を支援します。
- 3 企業や関係機関と連携し、社会人などの「学び直し」を支える環境づくりを進めます。
- 4 ワークেশン誘致やファン開拓、ふるさと納税などを通じて、関係人口を拡大し、地域の新たな価値づくりを進めます。

そのマルで囲ってあるのは、「学び直し」を支える環境づくりと書いてあります。

最近、日経とかタイトルで出てくるのが、「リスキリング」というような英語を使っております。これからの新しいまちづくりを考える上で、どういう人材を育てていくか、また今いる人材にどんな学び直しをしてもらうか、これ非常に重要な問題だと思っております。

これまでもこの12年間、色々やって参りました。

直近のお話をしますと、今般9月の帯広市議会の定例会で補正予算を議決していただきましたが、幅広い世代が新

な知識やスキル、さっき言いました「リスキリング」、これを習得できる環境整備をしようということで、「熱中開拓機構」と、「フードバレーとかち推進協議会」がコラボレーションをしてやっていこうという事になりました。

十勝の強みの食と農業に焦点をあてた講座の実施を通じまして、起業と創業を図っていくという事です。

このような動きに、有名な会社ですけれども、内田洋行さんですとか、札幌にありますキャリアバンクさんに共鳴いただきまして、ふるさと納税を使って本件をバックアップしていただけるということで、寄附をいただいているところであります。

また、学校給食を通じた食育の推進など、「食」をもとに市民の健康や愛郷心、地域の文化を育む取り組みを進めます。

- 5 生産者や企業、専門家などと連携し、「おびひろの『おいしい』給食」プロジェクトを推進します。
- 6 市民や企業、関係機関と連携し、食をはじめ観光やスポーツ、みどりなど様々な分野で「健康」の視点からの取り組みを進めます。

ここに書いてありますが、先ほど言いました「おいしい」給食プロジェクトであります。

これは、今思いっきり力を入れてやっております。

発信が足りなかったなと思っていることも随分ありまして、これまでやってきたこと、先ほどの清川の保育園の話もしましたが、やってきていること実はもっともっと発信していった方がよいなという思いもあります。

これからも新しいおいしい帯広の給食づくりも頑張っていきたいと思っております。

また、学校給食を通じた食育の推進など、「食」をもとに市民の健康や愛郷心、地域の文化を育む取り組みを進めます。

5 生産者や企業、専門家などと連携し、「おびひろの『おいしい』給食」プロジェクトを推進します。

6 市民や企業、関係機関と連携し、食をはじめ観光やスポーツ、みどりなど様々な分野で「健康」の視点からの取り組みを進めます。

健康であります。

アフターコロナのキーワードは、やはり「健康」だろうと認識をしているところであります。色んなアプローチがありますが、その一つがサイクリングであります。

「トカプチ 400」という指定を受けておりますので、しっかりと我々フォローしながら、帯広市そして十勝の健康を考えていきたいと思っております。

ゼロカーボンであります。

今年の6月に「ゼロカーボンシティ宣言」を帯広もさせていただきました。これからこの地域は従来から私申し上げておりますけれども、気候変動、それから食料の安全保障、水資源の確保、エネルギー供給という世界共通の課題に対して、当事者意識をもって取り組んでいける、そういう地域だと思っております。

帯広は平成20年から環境モデル都市に指定をされておりますが、その延長でこれからもしっかりと頑張っていきたいと思っております。

キーワードは「多様性」という事になります。

フードバレーとかち New Stage

「環境・デジタルで輝くまち」

これまでの「環境モデル都市」の取り組みを、「ゼロカーボン」の新たな段階へ発展させるとともに、デジタルの力を活用して地域課題の解決に取り組み、個性あふれるまちの実現につなげます。

11 「2050年ゼロカーボン」に向けた戦略を描き、地域の特性を活かした脱炭素の取り組みを進めます。

12 「デジタル田園都市おびひろ」を目指し、暮らしや産業、行政などでのデジタル活用策の全体像を描き、企業などと連携し取り組みを進めます。

13 企業などと連携し、^{マース}MaaSや自動運転などの新しい移動サービスの実証、実装を進めます。

14 企業や専門家などと連携し、ICTを活用した多彩な授業づくりを進めます。

フードバレーとかち New Stage

「環境・デジタルで輝くまち」

これまでの「環境モデル都市」の取り組みを、「ゼロカーボン」の新たな段階へ発展させるとともに、デジタルの力を活用して地域課題の解決に取り組み、個性あふれるまちの実現につなげます。

11 「2050年ゼロカーボン」に向けた戦略を描き、地域の特性を活かした脱炭素の取り組みを進めます。

12 「デジタル田園都市おびひろ」を目指し、暮らしや産業、行政などでのデジタル活用策の全体像を描き、企業などと連携し取り組みを進めます。

13 企業などと連携し、^{マース}MaaSや自動運転などの新しい移動サービスの実証、実装を進めます。

14 企業や専門家などと連携し、ICTを活用した多彩な授業づくりを進めます。

最近、よく耳にします「デジタル田園都市」に対しての公約であります。

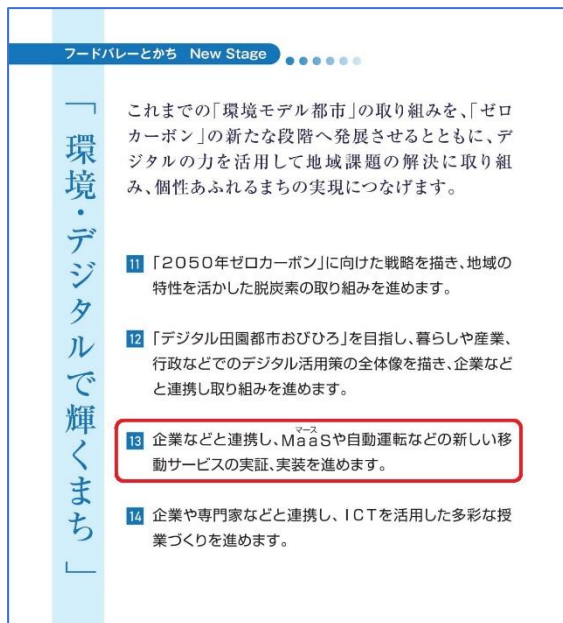
「デジタル田園都市おびひろ」を推進しているという事であります。

これまでの国の総合戦略が、今度は、「デジタル田園都市構想総合戦略」というように制度が変わり、今年の年末までに国が策定します。これに我々すぐに乗っかっていかなければいいですか、追っかけていかなければいけません。

この辺の施策間の連携や自治体間の連携などについて、我々は今真剣に考えていかなければと思っております。帯広市といういわゆる規模感といいますか、そういうものとのDX、デジタル化という事、これ非常に大きな国にとってもテーマだというふうに思っておりますので、

この辺しっかりと遅れないように頑張っていきたいと思います。

遅れないどころか、我々なりの新しい視点で、このデジタル化に取り組んでいきたいなというふうに思っております。



これが公約の最後のスライドになります。

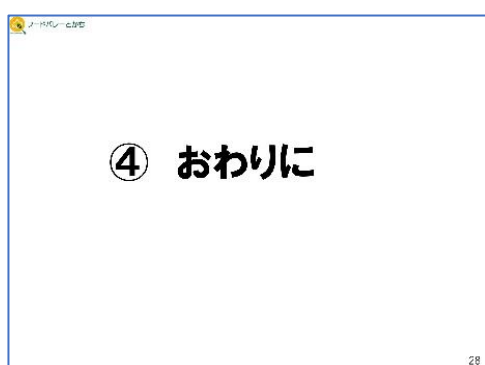
「新しいモビリティとMaaS」と書いてあります。これから高齢化、それから過疎化という中で、人の移動というのが非常に大きなテーマになってくると思っております。

それと一緒に運転手さん不足という問題も出てきますので、自動運転ですとか、色んな意味で我々の生活を豊かにするための移動、空間移動ということについて、我々は真剣に取り組んで行かなければならないと思っています。

今日の午前中、ある会社から、動物園の電動カートを贈っていただきました。自分のお母様が歩けなくなった時に、電動カートがものすごく有難かったという事で、会社の周年事業の中

で何がいいかと考えたときに、電動カートという事になり、今日親子で来ていただいて寄贈をいただきました。

こういうパーソナルモビリティという、個人が自分で車いすを使ってでも、電動車いすを使ってでもどれだけ移動できるか、ストレスなく動けるかというのはこれから非常に重要な問題になってくるだろうな、どんなにおいしいものを買ってきてもらっても、やっぱり出かけて行ってその場所で食べたい、それができるようにしなければならないなというように思っております、これもしっかりとやっていきたいと思っております。



いよいよ最後になりますけれども、私これまで4回の市長選挙を戦わせていただきました。

2回目からの選挙では、先ほどお示したように、公約を冊子にまとめまして、タイトルを、「米沢のりひさの未来のつくり方」として、3種類あるんですけども出させていただきました。

夢かなうまちおびひろというのが、一番上に書いてございます。

今回4回目でありました。

今回、今日の報告でも実は色んなところで参加をしてくれている若くて優秀な仲間たちの力を借りまして、冊子だけではなくて、動画 YouTube での配信にもチャレンジをさせていただいたところです。

最初の冊子、2期目の選挙、平成 26 年の3月ですが、この時のタイトルが「フードバレーとかち ネクストステージ」加速進化としました。

平成 30 年が「フードバレーとかち アワーニューフロンティア」静かに健やかに遠くまで、4 回目が「フードバレーとかち ニューステージ」あおあお ひろびろ いきいき、こういうふうにさせていただきました。

今日お話ししたいのは、今回 4 回目の選挙公約であります、いわゆるポピュリズム的なばらまきとか、バーゲンセール、こことは一線を画した選挙戦をしたいというのが 4 期目の私の気持ちでありました。

十勝・帯広をどんな場所、どんな地域にしたいんだ。十勝・帯広の可能性って何だ。子供たちそして未来世代に何を残すことができるか。そのために、今何をしなければならないのか。

これを中心に今回公約を作らせていただきました。

これまでの 12 年間で明らかに変わった、先ほどお話ししましたが、十勝・帯広のブレゼンスといいますか、存在感が変わりました。それゆえに、我々負うことになった責任と期待というものがあると思いますけれども、これらの先にある、「フードバレーとかち」の新たなステージに、今期挑戦をさせていただきます。

当選後、十勝の皆さんは、もとよりであります、札幌、東京、名古屋、大阪の企業または経営者の方たちから、随分、励ましの言葉をいただきました。

十勝・帯広となにか一緒に仕事をやろうと、協力するぞという声も多数いただきました。

ちょっと下世話な話になりますが、この青い本の公約を実現に足す、一助になるんだっらと言って寄附のお話もいただきました。ざっくり申しまして、現金で 1 億円以上です。また、物納でのご相談もいただいております、具体化はこれからではありますけれども、金額に換算いたしますとこれはざっくり 2 億円かかるだろう。というようなものの寄附のお申し出もいただいているところでございます。

これは、十勝・帯広の持つポテンシャルその時代性、これが非常に皆さんに分かっていただけるようになってきたというふうに思いました。

経営の研究

北海道発、日本・世界マーケット行き企業に
志ある資金提供をしたい

米沢 則寿（北海道銀行・三井物産株式会社代表取締役社長）

日本と外国の考え方の違い
昨今、ベトナム企業や中国企業、韓国企業、台湾企業などに積極的に投資する動きが、日本企業にも見られるようになった。これは、日本企業にとって大きなチャンスである。しかし、日本企業は、海外市場に進出する際に、日本と外国の考え方の違いを理解し、対応する必要がある。本誌は、日本企業と外国企業との交流を促進し、日本企業の海外市場進出をサポートする。本誌は、日本企業と外国企業との交流を促進し、日本企業の海外市場進出をサポートする。

ベンチャー・キャピタルの役割
ベンチャー・キャピタルは、スタートアップ企業に資金を提供する役割を果たす。ベンチャー・キャピタルは、スタートアップ企業に資金を提供する役割を果たす。ベンチャー・キャピタルは、スタートアップ企業に資金を提供する役割を果たす。



米沢 則寿（北海道銀行・三井物産株式会社代表取締役社長）

これが最後、今日のお話これで終わりであります。

何が写っているかわからないと思いますので、ちょっと恥ずかしい写真なんですけれども、私が 40 歳のころの写真であります。

ある勉強会に呼ばれまして、講演をさせられました。そしてその時の講演録を機関誌にそのまま載せるからと言われた時のものです。

当時、私は北海道銀行と野村証券、そしてジャフコの合併会社の社長をやっておりました。

この勉強会の名前、皆さんご存じだとは思いますが、「盛和塾」と言います。

過日亡くなった、京セラの創業者、そして JAL の再建にもあたられました、稲盛和夫さん

を囲む勉強会であります。その機関誌に掲載された写真であります。この機関誌 2019 年までの 27 年間で 156 号刊行されたというように思っております。

これさすがに 40 歳の若輩者と言いますか、若僧で、タイトルも、書いてある内容も今に至っては、穴があったら入りたい、顔から汗がでるといふところのものであります。

過日京セラから電話をいただきました。

稲盛さんを偲ぶためにこの「盛和塾」の機関誌をデジタルアーカイブにすると、バックナンバーすべて入れるからという事で、中に出てくる人間に連絡を取って、了解をとっているといわれました。この写真ですから見た瞬間にどうしようかと思ったんですが、さすがに断れませんでした。

それで、稲盛さんのお話で終わりたいと思います。札幌の勤務が終わってから東京に戻りました。そして、ジャフコで役員にしてもらったんですが、その間も色々ご縁いただき、稲盛さんの著書を随分読ませていただきました。今日、ここに出させていだいたのは、彼の言っている「6つの精進」というものであります。

フードパントリーとがら

- 誰にも負けない努力をする
- 謙虚にして おごらず
- 反省のある毎日を送る
- 生きていることに感謝する
- 善行、利他行を積む
- 感性的な悩みをしない

(6つの精進 稲盛和夫)

30

稲盛さん、どちらかと言いますと敬天愛人という言葉を使います。

天を敬い、人を愛せよというお話でありますけれども、私これを見て、十勝の先人たちはこうやって生きてきたんじゃないかと感じております。

環境が悪くても良くても、努力をして惜しまないこと。先が見通せない時だからこそ、それを徹底するしかないんだ。

繰り返しますが、この「6つの精進」、私こ

れからもしっかりと胸に秘めていきたいと思ひます。

4期目もやがて半年、6ヵ月が経過いたします。

これからも皆さんのお知恵、そしてお力をお借りしながら、「あおあお ひろびろ いきいき 未来を信じるおびひろ」を実現するために、精一杯取り組んで参る所存であります。

引き続いてのお力添えをお願いして、本日のお話を結ばせていただきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

